

カラダもココロも健康に

いきいきらしいふ

no.84
2024.SUMMER

徳大病院だより

特集

どうする？子どもの“でべそ”

■CLOSE UP

周術期管理センターについて

■徳大病院ニュース

- ・ホスピタルギャラリー be「和紙を装う」展を開催しています
- ・予約の変更はインターネットから！「やくばと病院予約」がはじまります
- ・令和6年「看護の日・看護週間」の取り組みとしてイベントを開催しました

■tokudai-staff information

どうする？ 子どもの“でべそ”

子ども、特に赤ちゃんには“でべそ”が多く、心配している親御さんは多いと思います。子どもの“でべそ”はそのほとんどが自然治癒しますが、早期の治療が推奨されるものもあります。今回は、その病態や治療法について、小児外科・小児内視鏡外科の石橋診療科長に伺いました。

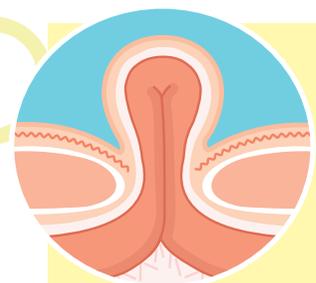


“でべそ”とは？

“でべそ”には「^{さい}臍ヘルニア」と「^{さい}臍突出症」の2種類があります。通常、へその緒(臍帯)が通っていた穴は自然と閉じていきますが、穴が閉じずに空いたままの状態を「臍ヘルニア」と呼びます。臍ヘルニアは、泣いたりいきんだりして腹圧がかかったときに腸が飛び出し、お腹の中の腸が出たり入ったりしてしまいます。臍ヘルニアの原因はよく分かっていませんが、5~10人にひとりの割合でみられ、生後3ヶ月頃までに大きくなり、ひどい場合は直径が3cm以上になることもあります。

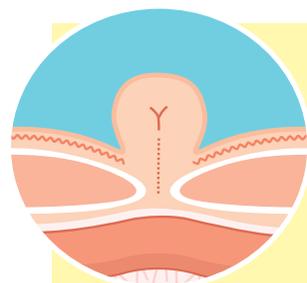
それに対し、「臍突出症」は、穴は閉じているがへそが出ている状態を言い、臍ヘルニアが長期間かけて治癒した場合に起こりやすいです。へそが出ているだけで、病的な状態ではありません。

この2種類の判別ですが、立っている状態と仰向けに寝ている状態で、膨らみの大きさや形が変化するなら「臍ヘルニア」、変化しないなら「臍突出症」の可能性が高いです。



穴から腸管が脱出している

臍ヘルニア



穴は閉じているがへそが出ている

臍突出症



患者さんへひとこと

子どもの“でべそ”に関しては、早期に小児外科を受診することをお勧めします。

■説明は
徳島大学病院
小児外科・小児内視鏡外科
診療科長

石橋 広樹
(いしばし ひろき)

■お問い合わせ先
小児外科外来
Tel : 088-633-7136



治療法は？

2種類のうち、特に治療が推奨されるのは臍ヘルニアです。臍ヘルニアは、2歳までに9割が自然治癒しますが、2歳を超えて治らなければ手術が必要です。また、治癒までに長期間かかった場合、臍突出症が起こりやすいです。そのため本院では、早期に臍ヘルニアを治し、臍突出症を予防するため、乳児期において積極的に「テープ圧迫療法」を行っています。

テープ圧迫療法は、ガーゼ球を使い、臍ヘルニアを強く押し込んだ状態を伸縮性のあるテープで固定し、その上から防水フィルムで保護します。その際、不十分な固定では効果がないので、臍の両端の腹壁を寄せて、腸管がしっかり納まった状態で固定します。本院では、自宅でのテープの貼り替えはせず、週一回通院していただ

き、医師が貼り替えを行います。この治療法による標準的な治療期間は、約1ヶ月(約4回の通院)です。

子どもの“でべそ”は早めの治療が大切ですので、医療機関の受診を考えてみてください。



テープ圧迫療法で使用する
ガーゼ球・テープ・防水フィルム



テープで固定した状態

CLOSE UP!



■説明は
徳島大学病院
周術期管理センター
センター長
田中 克哉
(たなか かつや)

患者さんへ ひとこと

手術を受けられる患者さんはいろいろと不安なことがあると思います。我々は、各部署が連携を取りあって安心して安全な手術が受けられるように努力しています。お困りごとがあれば遠慮なくお声をおかけ下さい。

周術期管理センターについて

手術を受ける患者さんは様々な不安をお持ちだと思います。本院では、患者さんに安心・安全に手術を受けていただけるよう、外科医師だけではなく多職種が連携しサポートを行う「周術期管理センター」を設置しています。今回はセンター長の田中先生にお話を伺いました。

○ 周術期管理センターについて



「周術期」とは、手術を受ける患者さんの「手術前・手術中・手術後」の期間のことです。手術を安全に行うためには、周術期において、外科医師だけではなく、麻酔科医師、内科医師、歯科医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、作業療法士、歯科衛生士、歯科技工士、臨床工学技士など、様々な職種が連携し、患者さんをサポートする必要があります。本センターでは、多職種での連携と情報共有を円滑に行い、患者さんに安心・安全に手術を受けていただくことを目指しています。



周術期管理センターのスタッフ

○ 本院での取り組み

術前は、受診科からの手術の説明に加え、術前の検査、麻酔科の診察、内服薬の確認など、患者さんは不安を抱えながら短時間に多くの部署を回らなければならず、負担をおかけしています。本センターでは、多職種で連携し情報共有することで、術前の説明や検査を効率化し、患者さんの負担を軽減できるよう努めています。

また、術後の痛みに対してより充実したサポートを行うため、術後疼痛管理チームが昨年発足しました。術後の痛みは患者さんも非常に気にされていることだと思います。本院では、アプリを使って疼痛管理を行うシステムを導入しています。本システム導入前は鎮痛薬の投与にバルーンを用いており、患者さんが痛みを感じた際には看護師を呼び、看護師が投与を行っていました。しかし、本システムでは、医師が投与量や投与回数、投与間隔などをあらかじめ設定しておき、患者さんが痛みを感じた際に、ご自身がスイッチを押すこ

とで、決められた量の鎮痛薬が入っていきます。それらの情報はアプリで確認でき、患者さんの痛みもデータで可視化されます。またバルーンと違い非常に小型のポンプ式なので、患者さんの行動を妨げず術後をより安心・快適にお過ごしいただけます。



アプリを使った疼痛管理システム

○ 今後の活動について

今後の目標は、本センターによる患者さんへのサポートをもっと増やすことです。

また、長時間となり負担をおかけしている術前の説明について、動画でも見られるよう、QRコード付きのパンフレットを作成する予定です。手術に関する説明を聞く際

は不安も多く、一度では理解できないこともあるかと思いますが、ご自宅など落ち着いた状況で動画をご覧いただくことで、患者さんの安心と負担軽減につながればと思っています。

徳大病院ニュース 徳島大学病院の最新情報をお届けします

TOKUDAI BYOUIN NEWS

“ホスピタルギャラリー be「和紙を装う」展”を開催しています

本院では武蔵野美術大学との共同研究により、「美術」と「医術」のコラボレーション、「美(b)」と「医(e)」のコラボレーションとして、ホスピタルギャラリー beを西病棟1階に設置し、県内作家の作品や武蔵野美術大学の学生作品を展示しています。

令和6年4月22日から令和6年8月24日の期間、創作和紙人形作家 金山 侁子氏による「和紙を装う」展を開催しています。本院にお越しの際は、是非ご覧ください。

期間：令和6年4月22日(月)～令和6年8月24日(土)

場所：ホスピタルギャラリー be(西病棟1階ロビー) 協力：武蔵野美術大学



予約の変更はインターネットから!「やくばと病院予約」がはじまります

現在、再診の予約変更は予約センターと各診療科の外来で電話受付しておりますが、「電話が繋がりにくい」というご意見が多く寄せられております。この課題を解決すべく、この度、インターネットを使って再診の予約変更の申し込みができる「やくばと病院予約」を7月に導入する予定です。

病院ホームページのリンク先からメールアドレスを登録いただきますと申し込みフォームが送信されますので、ご希望の内容を申し込みください。予約センターで申し込み内容を確認のうえ、数日のうちに、決定した予約変更についてご返信させていただきます。

「やくばと病院予約」からは24時間365日いつでも申し込みできますので、是非ご利用ください。

令和6年「看護の日・看護週間」の取り組みとしてイベントを開催しました

「5月12日は看護の日」

「看護の心をみんなの心に」



近代看護を築いたナイチンゲールの誕生日にちなみ「国際看護師の日」が制定されました。看護の心、ケアの心、助け合いの心を、私たち一人一人が分かち合うことが必要です。こうした心を、老若男女を問わずだれもが育むきっかけとなるよう、日本では平成2年に「看護の日」が制定されました。

「看護の日」を含む週の日曜日～土曜日は「看護週間」とされ、全国各地で取り組みが行われ、徳島大学病院看護部では、5月13日～5月17日の間に外来患者さん、入院患者さんへ看護部キャラクターのロゴマーク付きの文具などを配布しました。

tokudai-staff information

新任のごあいさつ



総合歯科診療部長

北村 直也

(きたむら なおや)

令和6年4月1日付けで総合歯科診療部長に着任いたしました。総合歯科診療部では、徳島大学病院の歯科に初めて来院された患者さんのお話を聞き、最適な診療科へバトンをつなぐ役割を研修歯科医らと行うと共に、総合的な歯科治療を実践しています。私はこれまで、幅広い歯科・口腔外科疾患の治療にたずさわってきた経験を活かし、徳島県の皆様の歯や口腔の健康維持に貢献できるよう努めて参りますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

治験を実施しています

現在、開発中の医薬品の候補(治験薬)あるいは医療機器を用いた治験を、以下の病気を対象に実施しています。参加いただいた患者さんにおけるデータを集め、有効性や安全性を確認して医薬品や医療機器としての「承認」を得ることが治験の目的ですが、参加いただいた患者さんにとって良い効果をもたらす場合もあります。まずは、よく情報を得ていただきたいと思っておりますので、**お気軽にお問い合わせください。**

ご協力をお願いします。

- 肺がん
- 腎細胞がん
- 肝細胞がん
- 筋層浸潤性膀胱がん
- 乳がん
- 食道がん
- 尿路上皮がん
- 急性冠症候群
- 心性浮腫(うっ血性心不全)
- 統合失調症
- ALアミロイドーシス
- 金属パネルアレルギー
- 原発性IgA腎症
- 眼瞼けいれん
- 痙性斜頸
- 難治性てんかん



問合せ：総合臨床研究センター
tel.088-633-9294

総合案内・眼科外来ボランティア大募集

- ・病院玄関での受診手続きの補助
- ・車いすの患者さんの介助、搬送

■お問い合わせ：徳島大学病院総務課 TEL：088-633-7463



各相談等の連絡先

- 患者支援センター
[難病・てんかん・高次脳機能障害など医療福祉相談]
Tel / 088-633-9107 (8:30 ~ 17:00 (休診日除く))
- がん相談
Tel / 088-633-9438 (8:30 ~ 17:00 (休診日除く))
- 緩和ケア相談
Tel / 088-633-7457 (8:30 ~ 17:00 (休診日除く))
- 肝疾患相談
Tel / 088-633-9002 (8:30 ~ 17:00 (休診日除く))
- 脳卒中・心臓病等に関するご相談
Tel / 088-618-0171 (8:30 ~ 17:00 (休診日除く))
- 遺伝カウンセリング
Tel / 088-633-9218 (9:00 ~ 17:00 (休診日除く))
- セカンドオピニオン
Tel / 088-633-9654 (9:00 ~ 17:00 (休診日除く))
- 総合臨床研究センター [治験]
Tel / 088-633-9294 (9:00 ~ 17:00 (休診日除く))

徳島大学病院へのご寄付

本院では、一層充実した医療を提供するために、寄付金というかたちで皆様のご厚志を生かしていきたいと考えています。皆様のご支援は、①病院設備・サービスの充実②診療環境の充実③医療スタッフの育成④地域医療への貢献のために充てさせていただきます。ご寄付をいただき心から感謝いたします。

- 寄付者のご芳名 ご同意していただいた方に限り、ここにご芳名を掲載させていただきます。
※2024/2/1 ~ 2024/3/31時点 (順不同)
芝 祐太様 岡 志保様 佐條 秀明様 佐條 和美様
- お申し込み状況 総件数：33件 総額：4,500,000円 ※2023/4/1 ~ 2024/3/31時点
- お申し込み方法 徳島大学病院のホームページでご覧いただけます。
来院中のお申し込みは、経理調達課経理・管理係または、お近くの当院スタッフまでお申し出ください。
- お問い合わせ 経理調達課経理・管理係 (月～金8:30 ~ 17:00) Tel / 088-633-7016

歩きスマホは大変危険ですので
ご注意ください。



 徳島大学病院
Tokushima University Hospital

〒770-8503 徳島県徳島市蔵本町2丁目50-1
<https://www.tokushima-hosp.jp/>

■ご意見・ご要望は右記までお寄せ下さい。bsoumuss1@tokushima-u.ac.jp

発行者
編集部会長
広報委員会
委員

病院長 香美 祥二
石澤 啓介
湯本 浩通 原田 雅史 滝沢 宏光 板東 美香
藤井 志朗 久保 亜貴子 大川 敏永 桐野 靖
武川 香織 戸崎 美鈴 兒玉 実和 金子 由起
榎本 清美 吉平 祐子 藤原 慶一 田木 真和
総務課広報・企画係 Tel.088-633-7697

事務担当